

# 知って当たり前前

# 介護ガイド帳



上原喜光

この連休、帰省した人も多いと思います。

久しぶりに親の顔を見てへ体がずいぶん小さくなったなあ」と感じたとでしよう。

「そろそろ一緒に住むか」と話し合ってきた人もいるはず。たぶん、親からは「大丈夫だよ」と返事が返ってきたのではないでしようか。それより、「オマエ、もうすぐ定年だろう」と反対に心配されたでしよう。

いにしろ、地域どのかかわり合いがないと失望したはず。しかも、年が経った親が生活する場所としても、都会はともな親、もうすぐお世話になる親のため、国の介護保険サーピスとは別の各市町村ごとの地域サーピスを知っておくこと。

もつとも、親をひとりで田舎に置いておくのはに充実してきているので、例えば、秋田県の横手市社会福祉協議会なら、十文字福祉センターを紹介してくれるはず。帰省直後の今こそ、電話してみてください。

## 親を都会に呼ぶより、町役場に電話を



市町村の社会福祉協議会や役場の高齢福祉課へ相談すると、見守りサーピスや民生委員、ボランティアの人たちを紹介してくれます。最近では、この手の市町村単位のサーピス（全国介護者支援協議会会長）

（全国介護者支援協議会会長）